

# いちき串木野市立川上小学校

## 平成31年度スタート!

校長 北 洋昭

まだ桜の花びらが舞う通学路を、ボランティアの方と一緒に1年生の手を引いて登校してきた子どもたち。正門で「おはようございまーす!」と、元気なあいさつの後、玄関に向かって駆け出しました。明るくやる気に満ちた子どもたちの姿は、今年一年の頑張りを期待させます。

4月8日の入学式でかわいい4人の新入生を迎え、平成31年度は16人の児童と9人(特認校生6人)の職員でスタートしました。



私は、この度の定期人事異動でいちき串木野市教育委員会から参りました 北 洋昭 と申します。早速、入学式では、多くの御来賓、地域や保護者の皆様の御臨席をいただき、ありがとうございました。川上の豊かな環境を生かしながら、学校・家庭・地域が一体となって、地域の宝である子どもたちの健やかな成長を支えて参りたいと思っています。御支援・御協力をよろしくお願いいたします。



### 【学校教育目標】

「豊かな心を持ち、たくましく生きぬく力を備えた川上の子どもを育てる。」

〈校訓〉 ○ かしこく ○ たくましく ○ うるわしく

〈キャッチフレーズ〉 「出会い、ふれあい、学び合い」

※ これまでの取組を生かしながら、川上小ならではの教育づくりを進めて参ります。

# 川上っ子

平成31年 4月号

## 心温まる入学式

薄紅色の桜の花びらが春の暖かな光に照らされて、4人の新1年生人の入学を祝福するかのようでした。

来賓の皆様、地域の皆様などおよそ70人の笑顔に包まれた心温まる入学式を行うことができた事に感謝申し上げます。

今年も地域を知り、地域に誇りをもち、地域に関わろうとする子供を確実に育て、「ふるさとを愛し、夢と志を育む」学校・学級づくりに努めていきます。



## 転入職員紹介

平成31年度教職員人事異動で次の3名の職員が、転入しましたので紹介いたします。

### ◎ 北 洋昭校長 (いちき串木野市教育委員会より)

川上小学校の恵まれた環境とこれまでの伝統を生かしながら、「川上小でよかった。」と児童も保護者も教職員も地域の方々も、誇りをもって話せるような学校にしていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

### ◎ 神宮司弘子 養護教諭 (鹿児島市立皆与志小学校より)

自主的に多くの活動をしている川上小の子どもたちに毎日元気をもらっています。20年前のかわいい中学生が内田家の立派な母となった姿にも感動しました。皆さん、保健室に気軽においでください。よろしくお願いいたします。

### ◎ 西別府久子 学校主事 (新規雇用)

美しい花々と緑に囲まれた川上小学校の子どもたちから毎日元気をもらっています。歴史あるこの学校で働けることに感謝しながら頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 読書大好きっ子!に

「もうすぐ、『ほたるでナイト』の絵画の時期だ。ところでホタルってなんで光るんだろう。調べてみよう。」など、本校では日常生活の中から疑問を生み出し、自ら本で調べ、感動を味わい、その感動を友達に伝えようとする児童を育てるために、読書指導に力を入れていきます。



学校では、「教えなければならないこと」を「子どもたちの学びたい」ものに変えられるようにすること。授業や日常生活の中で子どもたちが「問い」をもてるように仕掛けを工夫すること。そして、子どもに自らの疑問を調べる力を付けさせることに全職員で取り組んでいます。

また、外部の読み聞かせ団体「お話カンガルー」さんにPTAや地域の方にも入ってもらい、読み聞かせ等の取組をさらに充実させるなど、学校・家庭・地域が一体となった読書指導が展開できればと考えております(例えば、地域の方に学校に来ていただき、「桃太郎」の絵本を鹿児島弁で読んでいただくなど)。この取組によきアイデアがございましたら、教えていただくとありがたいです。



### 《4月後半の主な行事予定》

27日(土) みどりの感謝祭

28日(日) 茶摘み

### 《5月の主な行事予定》

9日(木) 学校運営協議会

11日(土) 授業参観、緑の少年団総会  
茶の袋詰め(9:30~多目的ホール)

27日(月) 5・6年宿泊学習(~28日)

29日(水) 5・6年休養措置日

30日(木) プール掃除

### 《6月後半の主な行事予定》

1日(土) 小規模4校PTA交流会



# 食農教育の充実

川上小学校では、平成31年度は次のようなことを児童や保護者、地域の方々が語れるような特色ある学校づくりを進めていきたいと考えています。

「川上小では、こんな環境の中で、このような先生方が、こんな指導をしてくれて、こんなことができるようになるよ」

それらをアピールできるような教育活動の柱として、次の4つを「川上ブランド」として特に大切にしていきたいと考えています。

川上ブランド1 読書指導の充実



川上ブランド2 食農教育の充実



川上ブランド3 ICT活用の充実



川上ブランド4 外国語教育の充実

現在、職員一丸となってこれまでの取組を「川上ブランド」としてまとめ、発展させていけるよう準備を進めているところです。

さて、今回はその中の川上ブランド2「食農教育」について、御説明とお願いをいたします。

まず、食農教育とは、『食べる』という人間にとって大事な行為そのものだけでなく、その背景にある動物や植物の『いのち』をも感じさせ、日本の豊かな自然や四季の尊さ、農業の果たす役割、『食』と『農』との目には見えない強い繋がりを学ぶ学習」のことです。

次の児童の感想文は、食農教育で目指す子どもの姿の一つだと考えています。



トウモロコシに学んだ命の強さ

川上小 5年 F・M (4年生の作文)

今年は、夏に向けてポップコーン用のトウモロコシを育てることにしました。種を黒ポットにまき、土づくりも自分たちでしました。毎日自主的に水かけもしました。でも、3週間たっても1本も芽が出ません。かわりに、去年育てたトウモロコシを育てることにしました。種をまく時期がおそかったけど、芽を出してくれたので安心しました。でもある日、成長してきた苗がにえたようになっていました。水まきに使ったホースの中の水が日差しで熱くなりすぎていたからかもしれません。「かててはいない。このまま育てよう。」と、先生が言いました。命をむだにするのはよくないからだと思いました。私たちは元気のない苗を畑にやさしく植え付けました。世話を去年よりもがんばりました。元気のない苗も少しずつふんばっていました。ずいぶん小さいです。つけはじめた実も去年より一回り小さかったです。でも、トウモロコシはがんばって実をつけてくれたのです。

傷つきながらも実をつけたトウモロコシを見て、私は命の強さを感じました。あきらめずに育て、小さくともいいから実をつけて、種を残そうとしたのだと思いました。



さて、前述のような食農教育を充実させ、子どもたちに豊かな学びを経験させてあげたいのですが、本校敷地内には「畑が少ない」という課題があります。

そこで、校庭の大久保公祖先の碑の隣にある岩石園を撤去して畑にできないかと考えているところです。しかし、この岩石園は、本校昭和44年度卒業生の記念製作なので、御意見をいただく必要がございます。現在、卒業生の代表の方に連絡をとっていただいています。このことも含め、どのような形で食農教育充実のための「畑づくり」を進めていったらよいか、地域の皆様の御意見をいただければと思います。「全ては子どもたちのために」御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



【昭和44年度卒業記念製作 岩石園】